

応用試験Ⅰ(聴解)

問題 1

これから聞く日本語学習者の日本語には、発音、語彙、文法、談話などのさまざまな誤りが含まれています。それぞれの発話の誤りがどのようなになっているか、あるいは、その誤りが何の誤りかについて、最も適当なものを、問題用紙の選択肢 A、B、C、Dの中から一つ選んでください。

例

- A /オ\カ/セ ン タ ー ニ シ エ キ
- B /オ\カ セ ン タ ー ニ/シ エ キ
- C オ/カ セ ン\タ ー ニ/シ エ\キ
- D オ/カ セ ン タ ー ニ シ\エ キ

15 番

- A アスペクトの誤り
- B ダイクシスの誤り
- C メトニミーの誤り
- D コロケーションの誤り

「音声Ⅱ」で練習する問題……「日本語教員試験」応用試験（聴解）問題Ⅰで出題されています。

- ・音声データ非公開⇒練習には「日本語教育能力検定試験」を用いる。
- ・公開されている選択肢

例⇒「日本語教育能力検定試験」における問題Ⅰ（高低アクセント題）※表記の違いに注意。

15 番⇒「日本語教育能力検定試験」における問題 6（文法分野）

つまり「日本語教員試験」の問題Ⅰは、音声分野だけでなく文法分野も含めた大問となっています。2024 年は、出題順がシャッフルされていた（出題スタイルごとにまとめられていない）ことで、難易度を高く感じた受験者が多かったようです。どの受験者も同じ条件であること、全問正解する必要のないことを念頭に取り組んでください。

※いずれの情報も、試験実施を重ねていくうちに変更される可能性があります。